

令和7年度病虫害発生予報第6号

長崎県病虫害防除所長

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
普通期水稻	紋枯病（注意報第2号継続） トビイロウンカ 穂吸汁性カメムシ類（注意報第1号継続）	やや多 やや少 多	多 並 多
大豆	ハスモンヨトウ 吸実性カメムシ類	やや少 少	並 やや少
いちご	うどんこ病 炭疽病 ハダニ類	やや少 並 やや少	やや少 やや多 やや少
アスパラガス	斑点性病害（褐斑病、斑点病） アザミウマ類	やや多 やや少	やや多 並
かんきつ	かいよう病 黒点病（防除情報第4号） ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ	並 やや多 並 並	並 やや多 並 並
果樹共通	カメムシ類	並	並
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	並 少 並 やや少 やや少 やや少 少	並 少 並 やや少 やや少 やや少 少

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

普通期水稻

1. 紋枯病

令和7年9月5日付け**病虫害発生予報注意報第2号**を継続。

なお、その後の発生状況については以下のとおりである。

(1) 発生状況等

ア 9月前期の巡回調査(72筆)の結果、発病株率は8.9%(4.4%)、発生圃場率は54.2%(43.2%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発病株率は79.0%(53.2%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本病は上位葉が発病すると収量低下などの被害が生じるので、出穂後急激に上位葉に病斑が進展し、多発するおそれのある圃場では、直ちに薬剤散布を実施する。薬剤散布は株元に粉剤又は液剤が十分付着するよう丁寧に行う。

イ 収穫時期が近いので、薬剤の散布時期に注意し使用基準を遵守する。

2. トビイロウンカ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(72筆)の結果、株当たり虫数は0.0頭(0.2頭)、発生圃場率は25.0%(40.9%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、株当たり虫数は0.7頭(0.2頭)、寄生株率は42.0%(16.8%)であった。

ウ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 出穂期以降の防除実施後もその後の発生状況に十分注意し、9月中旬に成虫・老齢幼虫を株当たり5頭以上認めた場合には早急に防除する。

イ 防除に当たっては、本虫の発生量は圃場間や同一圃場内でも偏りがあるので、圃場の見回りを徹底して、圃場全体の発生状況の把握に努める。

ウ 本虫は株元に好んで寄生するので、農薬散布は株元に薬剤が十分付着するよう丁寧に行う。

エ 収穫時期が近いので、薬剤の散布時期に注意し使用基準を遵守する。また、周辺環境を十分に確認し、ミツバチを含め周辺動植物等への飛散等の影響がないよう十分注意する。

3. 穂吸汁性カメムシ類

令和7年7月16日付け**病害虫発生予察注意報第1号**を継続。

なお、その後の発生状況については以下のとおりである。

(1) 発生状況等

ア 9月前期の巡回調査(63筆)の結果、捕虫網による20回すくいとりあたり虫数は2.3頭(0.6頭)、発生圃場率は42.9%(19.2%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、捕虫網による20回すくいとりあたり虫数は9.0頭(1.5頭)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫の防除対象となる中晩生品種については、圃場の見回りを徹底して本虫の発生状況を確認し、薬剤散布を実施する。

イ 水田への飛来が多くなる夕方に薬剤散布を実施すると効果が高い。

ウ 収穫時期が近いので、薬剤の散布時期に注意し使用基準を遵守する。また、周辺環境を十分に確認し、ミツバチを含め周辺動植物等への飛散等の影響がないよう十分注意する。

大豆

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(9筆)の結果、寄生株率は0.1%(7.7%)、株当たり虫数は0.0頭(0.4頭)、白変葉発生圃場率は37.5%(46.9%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(寄生株率1.5%、株当たり虫数0.0頭)。

ウ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、平年よりやや少で推移している(図)。

エ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見され始めたら早急に防除を行う。

イ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に薬剤散布する。

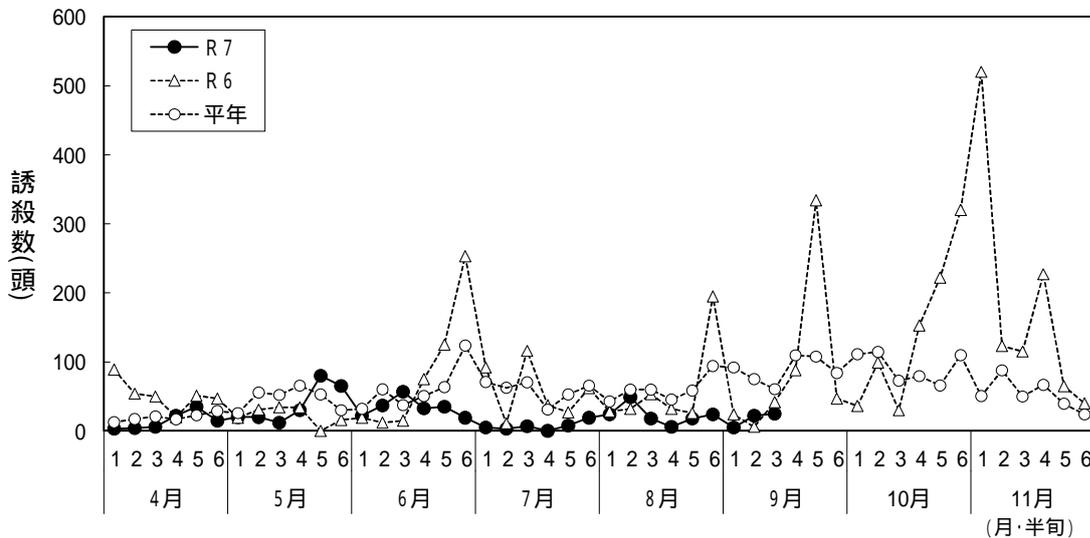


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越町)

2. 吸実性カメムシ類

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(9筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率0.3%、株当たり虫数0.0頭、発生圃場率12.8%)。

イ 9月3半月の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、寄生株率は2.0%(1.4%)、株当たり虫数は0.0頭(0.0頭)であった。

ウ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

稚莢期から莢肥大期にかけて薬剤散布を行う。また、薬剤は着莢部によくかかるよう、丁寧に散布する。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査(24筆、育苗圃)の結果、発生を認めなかった(過去10か年平均発病株率0.0%、同発生圃場率0.3%)。

2. 炭疽病

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(24筆、育苗圃)の結果、発病株率0.0%(0.0%)、発生圃場率は4.2%(12.9%)であった。

イ 病害虫防除員等からの報告によると地区によっては多発している圃場がある。

ウ 向こう1か月の気温は高く、降水量はやや多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

本圃で発病すると防除が困難であるので、今後、定植する圃場では苗の選別を徹底し、健全株を定植する。

3. ハダニ類

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(24筆、育苗圃)の結果、寄生株率は1.7%(4.7%)、発生圃場率は16.7%(35.3%)であった(図)。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

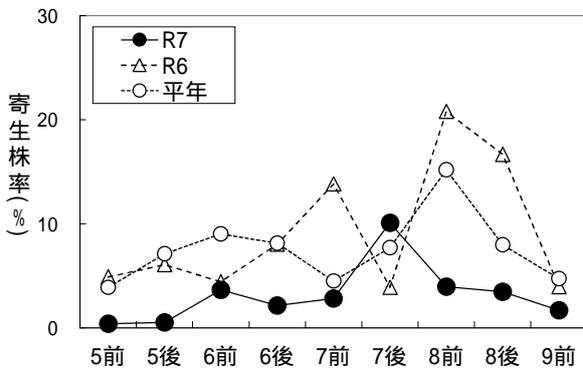


図 ハダニ類 寄生株率の推移(育苗圃)

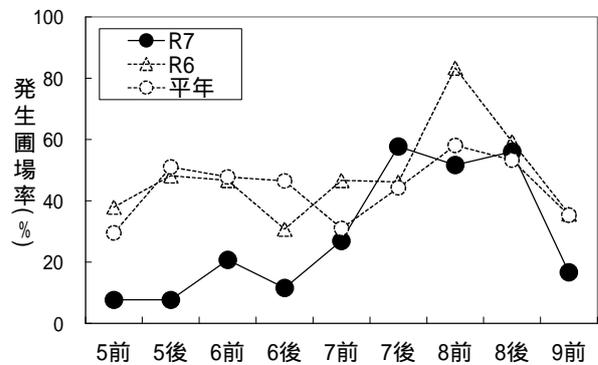


図 ハダニ類 発生圃場率の推移(育苗圃)

ア 本圃でハダニが多発すると防除が困難になるため、本圃へ持ち込まないように定植前までの防除を徹底する。すでに定植した圃場では、発生状況の把握に努め発生初期に防除する。

イ ハダニ類は下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和7年長崎県病害虫防除基準P182~183の「作用機構による分類(IRAC)」参照)の薬剤を連用しない。また、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤を積極的に活用するが、卵に対する効果が低いので5~7日おきに連続散布を行う。

エ 天敵を用いる圃場では薬剤の選定や使用時期に留意し、天敵に影響の小さい薬剤を使用する。

アスパラガス

1. 斑点性病害(褐斑病、斑点病)

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(10筆)の結果、発病側枝率は21.6%(15.1%)、発生圃場率は90.0%(72.0%)であった。

イ 向こう1か月の降水量はやや多い見込みであり、本病の発生に好適である。

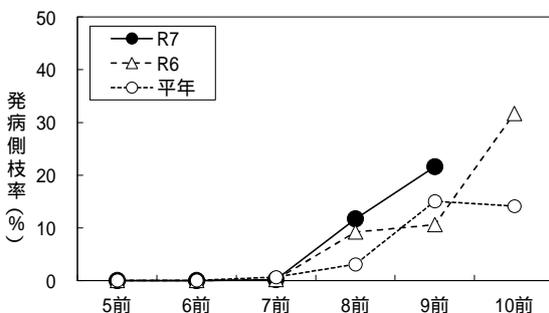


図 斑点性病害 発病側枝率の推移

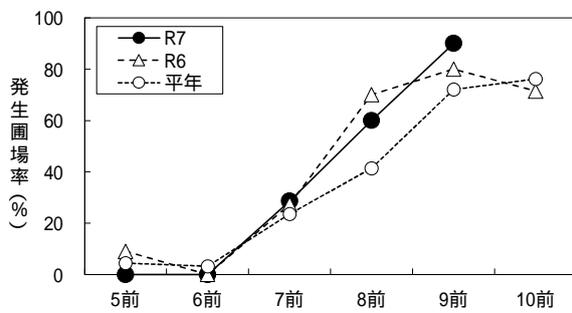


図 斑点性病害 発生圃場率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

ア 茎葉が過繁密にならないようにして、株内の通風性をよくする。また、妻面を開放するなどハウス内の湿度低減を図る。

イ 発生初期からの防除に努める。降雨後に多発しやすいので降雨が続く場合は散布回数、間隔を考慮する。

2. アザミウマ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(10筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cm白色板に5回×10か所)は18.2頭(14.0頭)、発生圃場率は20.0%

(53.1%)で一部多発圃場が見られた(図)。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

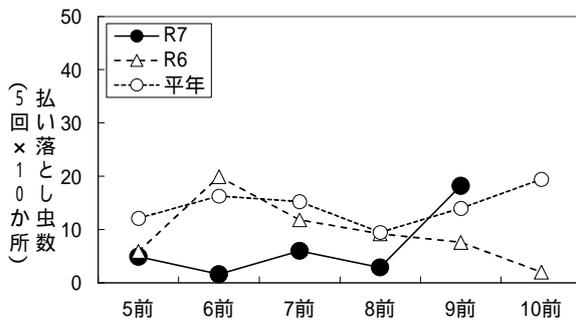


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移
払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

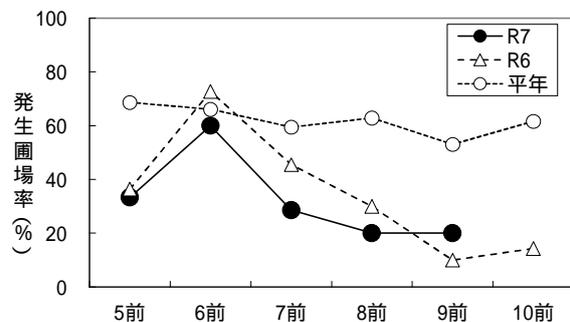


図 アザミウマ類 発生圃場率の推移

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査(36筆)の結果、発病葉率は0.3%(0.5%)、発生圃場率は13.9%(22.6%)、発病果率は0.0%(0.4%)、果実での発生圃場率は8.3%(16.7%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本病の抑制には、予防的な薬剤散布が効果的である。強風を伴う雨が予想される場合には事前に銅水和剤の散布を行う。

イ 銅剤は高温期に散布すると薬害を生じることがあるため注意する。また、薬害防止のため農薬のラベルに従い、炭酸カルシウム水和剤(クレフノン等)を混用する。

ウ 感染源を減らすため、発病枝や発病果は除去し、圃場外に持ち出し処分する。

2. 黒点病

令和7年9月17日付け**病害虫発生予察防除情報第4号**による。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は3.9%(2.6%)、発生圃場率は11.1%(28.5%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 盛夏期を過ぎて気温が低下してくると発生が増加するので、発生初期に防除する。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和7年長崎県病害虫防除基準P318~320およびP324~326の「作用機構による分類(IRAC)」参照)の薬剤は連用しない。

果樹共通

1. カメモシ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア かんきつでの9月前期の巡回調査(36筆)の結果、発生圃場率は5.6%(1.4%)であり、園への飛来が確認されている。

イ フェロモントラップ(諫早市、西海市、南島原市)の誘殺量は、平年並で推移している(図)。

ウ 予察灯(諫早市、南島原市、五島市)の誘殺量は、8月6半月以降、平年よりやや多く推移している(図)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 飛来量や飛来時期は園地により異なる場合があり、集中的に加害されるおそれもあるので、果樹園の見回りを徹底するとともに予め防除薬剤を準備し、飛来や被害果を認めたら早急に防除を行う。とくに山林に近い園地や毎年発生が認められる園地では注意する。

イ 果樹カメモシ類は主に夕方から夜間に飛来して果実を加害する傾向があるため、薬剤散布は夕方に行う。また、薬剤散布にあたっては使用時期、使用回数等を確認し、使用基準を遵守する。

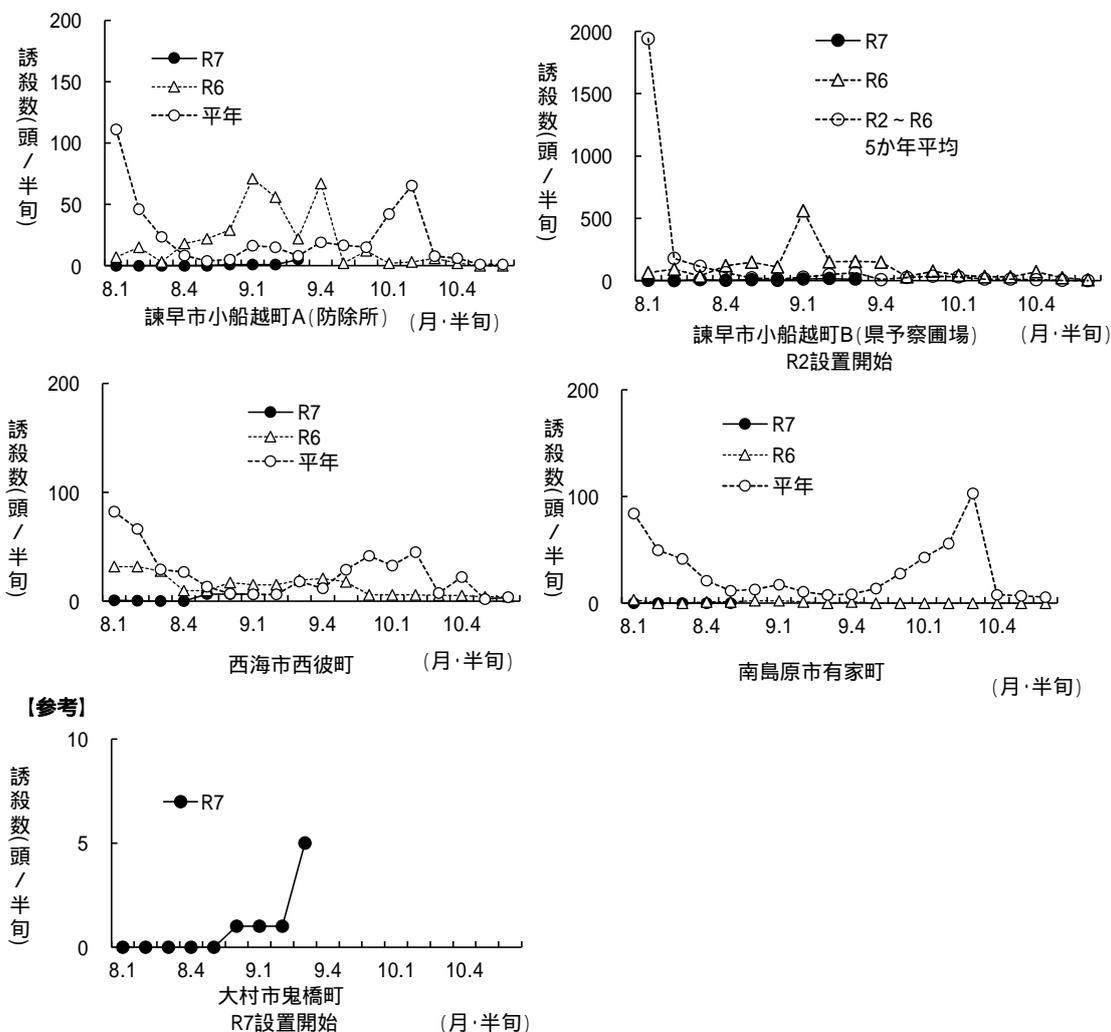


図 チャバネアオカメモシ・ツヤアオカメモシの誘殺状況(フェロモントラップ)

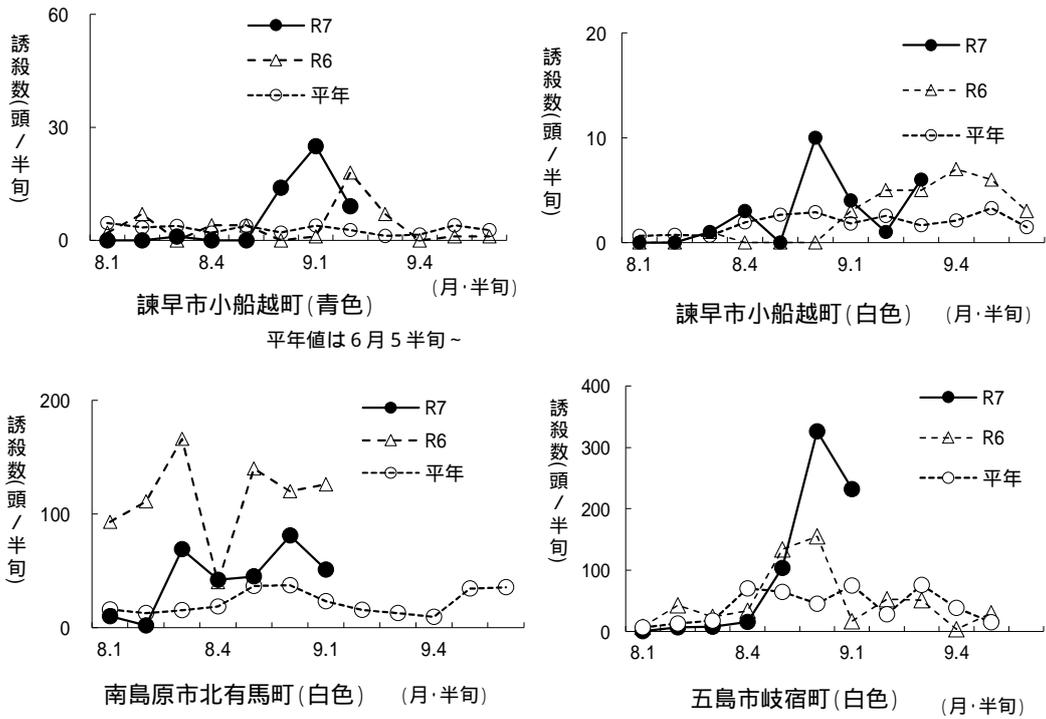


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシ誘殺状況(予察灯:白色、青色)

【参考】

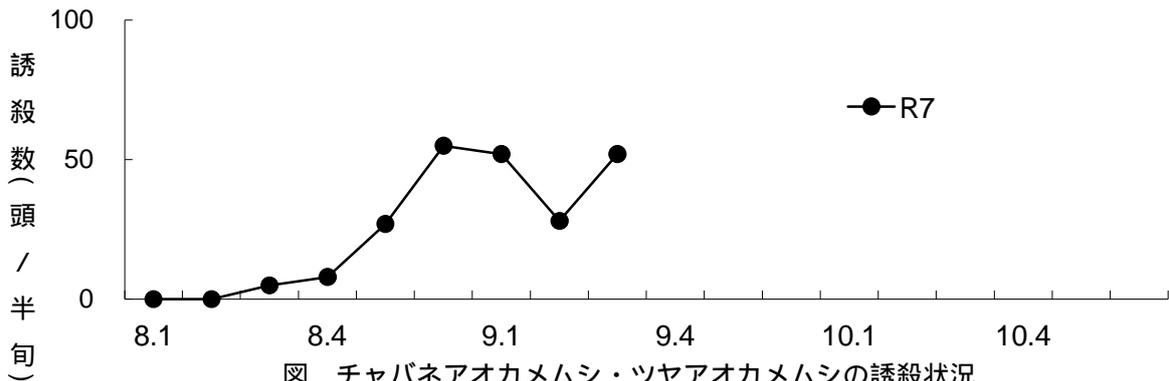


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況

(スマート害虫モニタリングシステム：諫早市) (月・半旬)

データは目視による計数值

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査(12筆)の結果、1m²当たり発病葉数は1.9枚(3.0枚)、発生圃場率は50.0%(67.8%)であった。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査(12筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は1.6頭(9.0頭)、発生圃場率は50.0%(84.4%)であった。

3. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(12筆)の結果、1m²あたり巻葉数は0.3枚(0.1枚)、発生圃場率は16.7%(11.0%)であった。

イ フェロモントラップ(東彼杵町)による誘殺量は、平年よりやや少ない(図)。

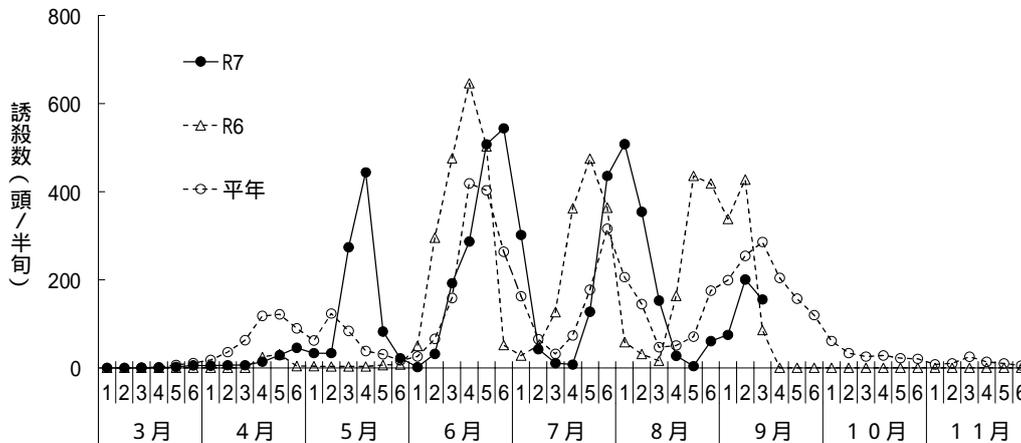


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況(東彼杵町：フェロモントラップ) (月・半旬)
茶業研究室調べ

(3) 防除上注意すべき事項

ア 防除適期の目安は、昆虫成長制御剤(IGR剤)は発蛾最盛期の頃、その他の薬剤は発蛾最盛期の約10日後である。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和7年長崎県病害虫防除基準P349~350の「作用機構による分類(IRAC)」参照)の薬剤は連用しない。

4. チャノホソガ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(12筆)の結果、巻葉を認めなかった(巻葉数0.0枚、発生圃場率5.9%)。

イ フェロモントラップ(東彼杵町)による誘殺量は、平年並~やや少なく推移している(図)。

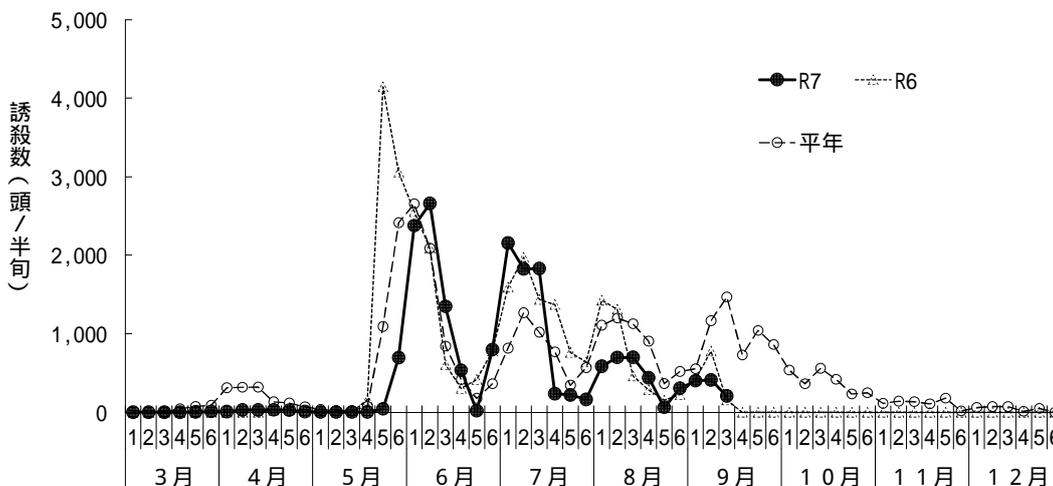


図 チャノホソガの誘殺状況(東彼杵町：フェロモントラップ) (月・半旬)
茶業研究室調べ

5.カンザワハダニ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.2%(0.7%)、発生圃場率は8.3%(16.0%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和7年長崎県病害虫防除基準P349~350の「作用機構による分類(IRAC)」参照)の薬剤は連用しない。

6.チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査(12筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は1.0頭(1.8頭)、発生圃場率は16.7%(46.3%)であった。

7.クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率0.8%、発生圃場率8.4%)。

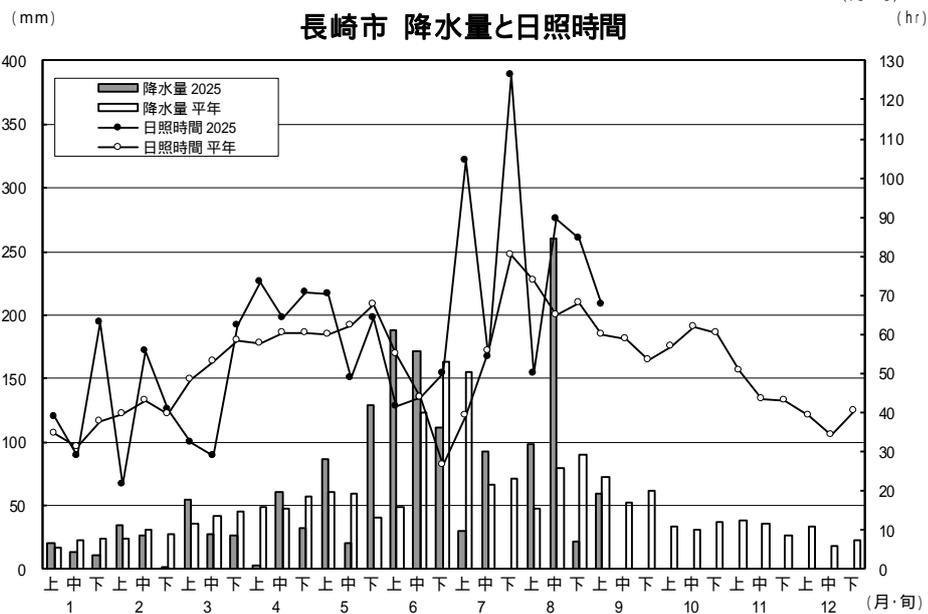
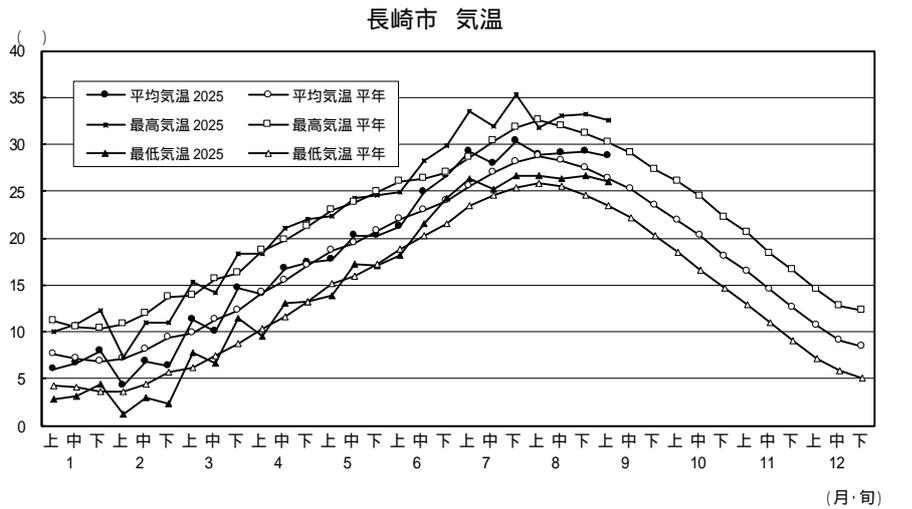
【参考】

(令和7年9月11日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	10	80
降水量	30	30	40
日照時間	30	30	40

予報対象地域：九州北部地域

令和7年の気象経過(長崎地方気象台)



長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス

: <https://www.pref.nagasaki.jp/e-nourin/nougi/JPP/index.html>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) TEL: 0957-26-0027

